腎代替療法の意思決定に役立つ教材の開発と評価

患者の生活や価値観を整理するワークシートの作成

○中村菜々子¹，加澤佳奈²（非会員）

(¹兵庫教育大学発達心理臨床研究センター, ²広島大学大学院医歯薬保健学研究科)

キーワード：腎代替療法，意思決定，ツール開発

Development and evaluation the quality of patient worksheets about renal replacement therapy.

Nanako NAKAMURA-TAIRA¹, Kana KAZAWA^{2#}

¹Center for Research on Human Development & Clinical Psychology, Hyogo Univ. of Teacher Education, ²Hiroshima Univ. Graduate School of Biomedical & Health Sciences)

Key Words: renal replacement therapy, decision making, tool development

目的

末期腎不全の腎代替療法には腎移植と人工透析がある。腎移植数が少ない日本においては、腎移植を希望する場合でも長期に渡る待機期間に人工透析を受療する必要があるため、腎代替療法の意思決定支援（療法選択支援）では、透析療法の選択支援を行うことが中心となっている。人工透析療法は血液透析と腹膜透析に大別され、それぞれ患者の生活を大きく変える治療法であることから、療法選択支援では、患者自身や医療者が意思決定に必要な情報（生活習慣や価値観）を的確に引き出し整理するツールが求められている。

今回我々は、NPO 法人腎臓サポート協会の療法選択支援冊子「腎不全とその治療法」の一部である、患者の考えや生活を把握するワークシート (WS) の改訂に協力する機会を得た。改訂経緯と看護師による WS の評価について報告する。

方法

WS の改訂

腎疾患に関する研究の経験がある健康心理学・臨床心理学の専門家（第1筆者）と、腎疾患に関する研究と療法選択の臨床経験を有する看護学の専門家（第2筆者）が内容を検討し提案した。改訂前の冊子は全27頁で、治療法や生活変化の説明等から構成されていた。このうち2頁が、患者の価値観と生活パターンを整理するWSとなっていた。改訂前のWSは、質問の抽象度が高いこと（Figure1）、複数の質問が1つの設問に含まれていること等が回答しづらさを招いていると考えられた。そこで、具体的な質問文、生活パターンは実際の来～土曜日の生活を記録する形式、オープン型の質問に加え選択型の質問を追加し高齢患者等が回答しやすい形式とする等に変更した。また実際の療法選択プロセスを整理し、改訂前に含まれていなかったが確認が必須と思われる項目を挙げ追加した。頁数は6頁（全31頁）となった。

		) *)																					
生活パターン																							
行動範囲	食生活の 偏食																						
	喫煙嗜好 の強さ	CAPD																					
	酒の 強さ	APD																					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22

Figure 1. 改訂前の生活パターン表

WS の評価

協力者 腎代替療法の選択支援技法を学ぶ講習会に参加した57名中49名の看護師が調査に協力した(平均39.87±8.94歳、女性48名、看護師経験年数平均16.83±8.86年、療法選択の経験平均4.55±4.45年)。本冊子を使用した療法選択支援の経験がない者は19名(38.78%)であった。

方法 質問紙調査を実施した。調査は無記名で、調査への協力は完全に自由意思に基づくことを伝えて依頼した。

評価指標 ①療法選択支援を行う際に感じる難しさを、情報把握（8選択肢とその他から選択）、および支援プロセス（4選択肢とその他から選択）の2側面から尋ねた。②改訂後のWSの3つの内容〔生活習慣の特徴を把握する頁（冊子4-5頁）、生活リズムを把握する表（冊子6-7頁）、治療の知識やイメージ・思い等を把握する頁（冊子8-9頁）〕について、有

用性と書きやすさの4件法による評価と自由記述を求めた。
③改訂後のWSについて感想や改善点の自由記述を求めた。

結果

患者の情報把握の難しさは（複数回答）、経済的問題（29名, 59.18%）、身体的精神的問題（23名, 46.94%）、腎代替療法への思い（22名, 44.90%）、生活パターンや生活の中で大事にしていること等（19名, 38.78%）、腎代替療法に対するイメージ（19名, 38.78%）、家族の支援状況（15名, 30.61%）キーパーソン（8名, 16.33%）、家族構成（5名, 10.20%）であった。

支援プロセスの難しさは(複数回答),説明に対する患者の理解度の把握(31名,63.27%),支援する医療スタッフ間での情報共有や継続支援(28名,57.14%)腎代替療法導入による生活や役割の変化を患者にイメージしてもらうこと(27名,55.10%),患者が感じる治療のメリットやデメリットの把握(14名,28.57%)であった。

改訂した WS の有用性と書きやすさの評価は概ね肯定的であった (Table 1, 2)。自由記述では、「以前より具体的になった」、「考えを整理しやすい」、「以前より意思決定に必要な情報が増えた」等肯定的なものが多かった。

Table 1. 有用性の評価 [人数 (%)]

	役に立つ	どちらかという と役に立つ	どちらかという と役に立たない	役に立たない	無回答
4-5 頁	25(51.02)	18(36.73)	0(0)	0(0)	6(12.24)
6-7 頁	24(48.98)	17(34.69)	1(2.04)	0(0)	7(14.29)
8-9 頁	20(40.82)	23(46.94)	1(2.04)	0(0)	5(10.20)

Table 2. 書きやすさの評価 [人数 (%)]

	書きやすい	どちらかという と書きやすい	どちらかという と書きづらい	書きづらい	無回答
4-5 頁	15(30.61)	20(40.82)	2(4.08)	0(0)	12(24.49)
6-7 頁	15(30.61)	16(32.65)	8(16.33)	1(2.04)	3(18.37)
8-9 頁	12(24.49)	23(46.94)	4(8.16)	0(0)	10(20.41)

改訂後 WS への感想等は概ね肯定的であったが（回答中 64.29%），色使い（白地に橙色の罫線）や「ケア」等の用語が高齢者に分かりづらいとする意見が回答中 14.29%あった。

考察

本研究では、心理学と看護学の専門家が協働し、腎代替療法の意思決定支援に役立つWSを開発した。WSには療法選択支援を行う看護師から、概ね肯定的な評価が得られた。

今回作成した **WS** は患者教育の冊子の一部であるが、今後は、この冊子を実際の療法選択支援のプロセスの中で活用していく方法を明らかにする必要がある。具体的には、支援者向けに、本研究で明らかにになった、経済的問題や心身の状態の把握、あるいは患者の理解度等を把握する等、支援者が難しさを感じる要素を含めて、療法選択の包括的プロセスが提供できるようなパッケージを開発していくことと、そのパッケージを使用した療法選択支援の有効性を明らかにすることが必要である。

(NPO 腎臓サポート協会 <http://www.kidneydirections.ne.jp/>)
(日本心理臨床学会研究助成金の適用を受けた)